



かえで通信

ご挨拶

今年もいよいよ残り僅かとなりました。

師走のご多用な時かと思いますが、風邪などお召しにならないようご自愛ください。

大竹 大輔

早朝の吐く息が白くなり、寒さがさらに増して参りました。このかえで通信でも度々書かせて頂きましたが、私は気持ちの凛と引き締まるこの季節が大好きです。年始に立てた目標を再度見直し、今年も残り僅かとなりましたが初心を忘れることなく、議員の職務や地域の活動に取り組んで参ります。

さて、12月22日に平成28年各務原市議会第4回定例会が閉会しました。今回も多くの皆さまに傍聴にお越し頂き心より感謝申し上げます。皆さまから会話を通じて頂きました様々なご意見やご提案が私の糧となり、今回の定例会でも一般質問にて、教育、空き家対策、高齢福祉など様々な観点から伺わせて頂き、来年度に繋がる多くの前向きなご答弁を頂きました。

今回の定例会は私の議員1期目の任期において、最後の定例会となりました。早いもので平成25年2月に当選させて頂き4年が経とうとしております。来年の2月には改選を迎えますが、冒頭にも述べましたように初心を忘れることなく、議員である前に人として自己啓発や様々な職務に精進して参ります。

それでは、年末の何かとご多用な時と存じますが、風邪やインフルエンザなどお召しにならないようご自愛ください。

年末も議員に必要な3つの力「会話力」「提案力」「行動力」を益々磨くことを念頭に置き、地域に根差した活動と共に、全ての世代にやさしいまちづくりに取り組んで参ります！

平成28年第4回定例会12月議会報告

平成28年第4回定例会は上程数が少ないながら、平成29年度の予算編成等に繋がる重要な案件が上程されました。

平成28年11月30日から12月22日までの23日間の会期にて、平成28年第4回各務原市議会定例会が開催されました。平成28年度予算の補正、条例の改正、製造請負契約など計25案件が上程され、第124号の市役所の耐震補強か建て替えかを選択する住民投票条例以外全て可決、同意、承認されました。一般質問では、次の3項目について質問致しました。

空き家リノベーションモデル事業について



問(大竹議員): 空き家リノベーションモデル事業の成果や課題は？

答(浅野市長): 8月のセミナーでは予想を上回る参加者を頂き、10月のセミナーでも好評であった。また「暮らしDIYリノベ」としてホームページを作成し、SNSからの情報も多くの方に閲覧して頂いている。この事業に魅力を感じ空き家を活用するまちづくりの拠点としての考え方や空き家を所有する方で、社会貢献がしたいと本事業に登録される方もみえる。また、既に契約直前の案件もあると報告を受けている。一方、貸主負担DIY型賃貸契約を活用するため、事業を展開するためには、安い家賃設定が必要であるが貸主は高い家賃を希望することや、空き家衛生設備の中でトイレの改修が必要になる場合があるが、この場合、初期投資がかかるなどの課題があった。

問(大竹議員): 空き家対策の来年度以降の取り組みは？

答(浅野市長): 本事業は、公金や補助金に頼らないビジネスモデルの確立を目指し、事業者が継続的に取り組める仕組みをつくる必要がある。民間主導で市と連携しながら業務を進め、今年度のモデル事業をもとに、市は空き家所有者の相談やその情報を収集して事業者へ提供し、事業者は借り手と貸し手のマッチングを図り契約件数やリノベーション事例の実績をつくり、ビジネスモデルを確立して事業の魅力発信を行い、空き家に移られた方自らが、情報発信源となるように取り組む。

高齢者や障がい者への投票支援について



問(大竹議員): 本市の高齢者や障がい者への投票支援の現状は？また今後の取り組みは？

答(田島選挙管理委員会事務局長): 高齢者や障がい者の方への投票支援としては、ハード面では、投票所への車椅子、身障者用記載台の配置のほか、投票用紙の記入時に使用する拡大鏡・文鎮などの設置を実施しており、段差のある投票所では、スロープを設置してバリアフリー化に努めている。また、来年からは、川島市民サービスセンターでは、杖置きを設置や土足のまま投票できる会場にすることを予定している。ソフト面では、職員等の補助のほか、点字投票や職員が代筆して投票する代理投票の案内、指定された病院や老人ホームなどで投票することができる不在者投票制度や、一部の重度の障がい者の方の自宅で投票できる郵便等投票制度などの周知も実施している。他市の事例等を調査・研究し、公職選挙法等の法令が示す可能な範囲で、高齢者や障がい者の方により一層配慮して投票環境の整備に取り組む。



各種教育施策における今年度の実績と、今後について

問(大竹議員): 各種の寺子屋事業の本年度の実績とその成果は？また、本年度から拡充された基礎学力定着事業における中学生を対象とする部分について、今後、他の地域でも実施する考えは？

答(加藤教育長): ららら学習室(中学生放課後学習室)は、中部学院大学各務原キャンパスと川島ライフデザインセンターの2か所で開催し、56名の生徒が通っている。講師からは、「学習に向かう姿勢が前向きに変わった」など、生徒の変化に喜び